農林中央金庫　庄内たがわ　日本政策金融公庫

2025 年 3 月 26 日
農林中央金庫山形支店
庄内たがわ農業協同組合
日本政策金融公庫山形支店

「もみ殻燻炭」の製造を通じて、脱炭素に貢献

～山形県鶴岡市の稲作・米乾燥調製受託企業の取組み～

山形県鶴岡市で稲作および米乾燥調製の受託を行っている有限会社田和楽（たわら、代表取締役：佐藤智信、以下「同社」）は、籾（もみ）を玄米に調製する過程で発生するもみ殻を炭化し「もみ殻燻炭（もみがらくんたん）」を製造することにより、脱炭素に貢献する取組みを行います。

この取組みに対し、農林中央金庫、庄内たがわ農業協同組合、および日本政策金融公庫は、もみ殻燻炭の製造設備導入にかかる融資等を連携して実施し支援いたしました。

≪ポイント≫

〇おいしさ、そして環境にも配慮した米作り～伝統的な「米俵」の製造

同社は 1996 年に設立。お客さまに安心して食べてもらえる米をお届けするため、化学肥料と農薬の使用量は半分以下（当地比）で栽培しています。また、土壌中の微生物によって分解される肥料を使用するなど、環境に配慮した取組みを進めています。

さらに同社では、古き良き稲作文化の伝承のため、今ではなかなか目にすることのない「米俵」も製造しています。

〇従来処分されていた「もみ殻」を土壌改良材に

「もみ殻燻炭」とは、籾を玄米に調製する過程で発生するもみ殻を炭化させたものです。「もみ殻燻炭」は、多くの微細な穴が空いたスポンジ構造で通気性や保水性に優れており（多孔質性）、微生物の住処となりその増殖に適しています。このため昔から、非常に優れた土壌改良資材として知られていました。しかし製造に手間がかかり、また火を使うため安全性に注意が必要であることから、従来は、もみ殻を燻炭にせず有償による廃棄、無償での畜産業者への譲渡、水田散布などの方法により、処分されることがほとんどでした。

そこで同社は今回導入した炭化製造装置で、2025 年３月から「もみ殻燻炭」の製造を開始します。同社および庄内たがわ農業協同組合から収集した年間約 1,200 トンのもみ殻は同約 300 トンの「もみ殻燻炭」に加工され、農家・ホームセンター等への販売を予定しています。

〇脱炭素への貢献 ～もみ殻燻炭の大きな可能性～

製造された「もみ殻燻炭」は土壌改良資材として利用されますが、これに留まらず、土壌に炭素を貯留することで温室効果ガスの削減が見込まれるものであり、同業他社と協力し 2026 年１月ごろを目途に「J-クレジット制度」への登録を計画、脱炭素への貢献も期待されます。

農林中央金庫、庄内たがわ農業協同組合および日本政策金融公庫は、今後もこうした環境負荷軽減を進める農林漁業者の皆さまのお取組みを、積極的に支援してまいります。

【本件に関する三者の主な役割】

① 農林中央金庫
案件の相談、事業計画づくり支援、事業性の評価、関係機関への情報連携・融資対応等、事業に必要な資金調達にかかるトータルコーディネート

② 庄内たがわ農業協同組合
公庫資金（受託）と連携した補完融資の対応、燻炭の原料となる籾殻の供給

③ 日本政策金融公庫
農林中央金庫と連携した支援、受託金融機関を通じた融資（民業補完機能の発揮）

＜お問い合わせ先＞
農林中央金庫 山形支店　℡：023-641-6275（担当：土屋）
住所:山形県山形市七日町 3-1-16 山形県 JA ビル
庄内たがわ農業協同組合　℡：0235-64-4926（担当：渡部）
住所:山形県鶴岡市上藤島字備中下 3-1
日本政策金融公庫 山形支店 農林水産事業　℡：023-625-6135（担当：大松）
住所:山形県山形市七日町 3-1-9 山形商工会議所会館 3 階

企 業 名	有限会社田和楽	代 表 者	佐藤　智信
所 在 地	山形県鶴岡市小中島字猫作 66-2	電話番号	0235-64-3093

もみ殻燻炭装置

もみ殻と加工後の燻炭